

JOC ジュニアオリンピックカップ
第17回 都道府県対抗全日本中学生男子ソフトボール大会
新型コロナウイルス感染防止対策ガイドライン

1 はじめに

(公財)日本ソフトボール協会が策定した「新型コロナウイルス感染症(COVID_19)におけるソフトボール活動の再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」を参考に、現時点における本ガイドラインを策定し感染拡大予防に努めたいと考えております。

なお、今後の状況により対策を追加することもあります。

2 大会運営留意事項

- (1) 三つの密(密閉、密集、密接)の発生が原則想定されないこと。(人と人との間隔はできるだけ2mを目安に)
- (2) 大会前、または、大会中に選手、その他の大会関係者に新型コロナウイルス感染が確認された場合は、(公財)日本ソフトボール協会、保健所等の指示に従う。
- (3) 熱、咳、倦怠感、咽頭痛などの症状がある選手、その他の大会関係者は参加を見合わせる。
- (4) 大声での発声、歌唱や声援、または、近接した距離での会話等が原則想定されないこと。
- (5) 参加者全員に本ガイドラインの周知徹底をはかる。
- (6) 監督会議および表彰式は行うが、開会式は実施しない。
- (7) 大会期間中に参加者(選手及びチーム関係者、大会役員等)に感染の疑いが出た場合は大会本部に連絡し、帰宅させる等適切な措置を講ずる。また、チーム内で感染者が出た場合は、当該チームは本大会での以後の試合への参加は見合わせ。
- (8) 参加チームは、「連絡先およびチーム関係者、大会役員等」を各チームの初戦前に大会事務局へ提出する。
- (9) その他、以下の感染防止対策を講じる。
- ①マスク着用の徹底。(プレー中の選手は例外)
 - ②入場の際に消毒液での手洗いを徹底する。(各所に消毒液を設置)
 - ③使用した器具や施設の消毒の実施。
 - ④対面での飲食は避ける。
 - ⑤タオル・ペットボトル・コップ等の共用は避ける。
 - ⑥鼻水、唾液などが付いたゴミは、ビニール袋に入れて密閉して縛り、ゴミを回収す

る人はマスクや手袋をし、マスクや手袋を外した後は必ず手指消毒をする。

3 競技上（練習含む）の留意点

- (1) バット、ヘルメット、打撃用手袋、ロジンバックなどは各選手が使用し、可能な限り他の選手との共用を回避するように努め、共用せざるを得ない用具については、こまめに消毒を行う。
- (2) 唾を吐く行為を禁止する。
- (3) 選手、特に投手は指を舐めてはいけない。
- (4) 握手、ハイタッチ、グータッチ、ハグなどの身体的接触を避ける。
- (5) グラウンドレベルでの円陣は控える。
- (6) ベンチ内での選手間の距離は、できるだけ2 m（最低1 m）を確保する。
- (7) ベンチ内には消毒液を設置する。
- (8) ベンチ内から声援や指示を出す場合は、対人距離に注意する。
- (9) 試合前の打順表最終確認の際は、可能な限りお互いの距離を取り、監督、審判の握手は行わない。
- (10) 球審はマスクもしくは飛沫防止用シールドを着用する。
- (11) 球審は捕手に触れてはいけない。
- (12) 監督、コーチが審判に近づく際は最低2 mの距離を保つ。
- (13) 試合開始時の整列及び礼は、球審の集合準備の合図で両チームがベンチ前に整列し、
その場で礼をして行う。試合終了時も同様の形態とする。
- (14) タオル・ペットボトル・コップ等の共用は避ける。

4 観戦者の留意事項

- (1) 発熱（37.5 度以上）、咳、倦怠感、咽頭痛などの症状が見られる場合には観戦を行わない。
- (2) 会場では、マスクを着用する。
- (3) こまめな手洗い、消毒を行う。
- (4) 間隔を空けて観戦を行う。
- (5) 応援については、以下の行為を行わない。
 - ①太鼓、トランペット等の楽器での鳴り物応援（飛沫感染リスク）
 - ②メガホン、スティックバルーンを使用しての応援（飛沫感染リスク）
 - ③大声を出しての応援（飛沫感染リスク）
 - ④フラッグや応援タオルを振り回す応援（飛沫、接触感染リスク）